

令和6年度「自己評価報告書」

社会福祉法人愛護会
金ケ崎保育園

1、保育目標

- | | |
|-----------------------------|-----------------------|
| ○健康で明るい子ども | ○なぜだろうと考え、物事に疑問をもつ子ども |
| ○自分のことは自分でできる子ども | ○他人のことを考え、協力できる子ども |
| ○自然にしたしみ、愛することのできる子ども | ○豊かな心を持つ子ども |
| ○人の話をしっかり聞き、自分の意思を言葉で話せる子ども | |

2、施設運営の重点課題

- ① 特色を活かした保育と、自己評価研修等を通し、職員の資質の向上を目指す。
- ② 職員一人ひとりが、より質の高い保育サービスを提供する中「たくましい子を生み育てる保育」の実践と研究をすすめる。
- ③ 郷土文化伝承活動「子ども鹿踊り」を保育に取り入れる。
- ④ 「食を営む力」を育むため、家庭、地域との連携を深め、子どもの健やかな成長発達を促す。
- ⑤ 地域社会資源の積極的活用と、ホームページ等を通し、情報発信に努める。
- ⑥ 保護者の保育体験・個別面談を通し、保育園と家庭と共通理解を持ちながら、保護者支援を行う。
- ⑦ 保護者や地域ニーズに対応し「すべての子どもと子育て家庭」の支援を行う。
- ⑧ 町の福祉行政や他の専門組織との連携を図り、子育てネットワーク作りを進めながら地域における子育て支援を行う。

評価の基準

A	充分達成されている
B	達成されている
C	取り組んでいるが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

3、評価項目と取り組み状況

自己評価項目		評価	取り組み状況
1	特色を活かした保育と、自己評価研修等を通し、職員の資質の向上を目指す。	B	・ひとり一人のスキルアップと保育の質の向上を目指し、「自然と触れ合える散歩コース」「うた」「わらべうたあそび」「楽しい食事」をテーマとし4チームに分かれて研修を進めることが出来た。 ・「人権擁護のセルフチェックリスト」活用により園内研修（自己評価研修等）を行い、自分の保育の振り返りを重ね、職員の資質の向上を目指した。
2	職員一人ひとりが、より質の高い保育サービスを提供する中「たくましい子を生み育てる保育」の実践と研究をすすめる。	A	・子どもたち一人ひとりの家庭環境と子どもの発達を理解し保育を展開するように努めた。 ・年長組が興味・関心を持った「動物」をテーマとし楽しい遊びづくりへ、さらに園全体の遊びへ発展し取り組むことができた。 ・園外保育等、自然の中での様々な体験が十分に楽しめるよう取り組むことができた。
3	郷土文化伝承活動「子ども鹿踊り」を保育に取り入れる。	A	・令和6年度も鹿踊り保存会の方からご指導を頂き、年長組が「子ども鹿踊り」に取り組み、9月運動会・12月表現発表会・3月卒園式後に披露した。

4	「食を営む力」を育むため、家庭、地域との連携を深め、子どもの健やかな成長発達を促す。	A	- 令和6年度の畑づくりは地域の方をお誘いし一緒に取り組むことができた。収穫した野菜を使って3・4・5歳児がクッキングを楽しみ、さつまいもは地域の方に届ける等の取り組みを行った。 - 動物をテーマとした保育活動のもと、動物を表現した行事食作りに取り組み、子どもたちの食への関心に繋げることができた。 - 作品展・お店やごっこは、食育に関する展示を行い、乳幼児期に身につけたい食習慣について保護者に発信した。畑づくり・クッキングの様子もブログ等で家庭にお知らせをした。 - アレルギー児への対応は、かかりつけ医師の指示書、保護者からの依頼書のもと、看護師、栄養士、保育士が連携を取り合い適切に行った。又、アレルギーに関する研修・職員情報共有のもと知識を高めることに努めた。
5	地域社会資源の積極的活用と、ホームページ等を通し、情報発信に努める。	B	- 動物を通して地域の方や卒園児の力をお借りし、年長組の遊びづくりへ、さらに園全体の活動に繋げることができた。 - 金ケ崎中学校3年生保育体験も令和6年度から再開でき、又福祉施設訪問、地域行事等への参加の機会も多く頂きふれあい交流等、貴重な体験ができた。今後も地域とのつながりを大事に取り組んでいきたい。 - 様々な活動後にはブログにて発信するように努めた。
6	保護者の保育体験・個別面談を通し、保育園と家庭と共通理解を持ちながら、保護者支援を行う。	B	個別面談・保護者保育体験を行い、お子さんの様子を共有することで園での保育の手立てとさせて頂くことができた。
7	保護者や地域ニーズに対応し「すべての子どもと子育て家庭」の支援を行う。	B	- 乳児保育、延長保育、障がい児保育、休日保育、病児保育事業を行った。病児保育事業は、保護者の要望に応えられるように努めた。 - 保護者への情報、連絡手段としてマチコミメールを活用することで、スムーズな対応に努めた。 - 金ケ崎町1歳半健診へのサポート対応を行い、地域の親子への支援にも努めた。
8	町の福祉行政や他の専門組織との連携を図り、子育てネットワーク作りを進めながら地域における子育て支援を行う。	A	年長組は就学に向けて回数を重ねて保護者との話し合いを行い、必要に応じて教育委員会・専門の方から助言を頂きながら進めていくことができた。小学校・専門機関・関係機関との連携を密にし取り組むことができた。